



Title	東京墨田区における事業体・世帯(家族)の生産・生活様式変容と地域社会の構造的変質過程：現下における「家」的社会的構造変質諸過程の分析：はしがき
Citation	『調査と社会理論』・研究報告書, 14
Issue Date	1990
Doc URL	http://hdl.handle.net/2115/24466
Type	bulletin (article)
File Information	14_Hashigaki.pdf



[Instructions for use](#)

はしがき

本書は、昭和63年及び平成元年の2年間にわたって、文部省科学研究費（総合A）——課題番号63301018「現下わが国における地域社会再開発に関する文化変動論的基礎研究」の一環である。調査は2年度にわたって北海道帯広市、東北福島市、東京墨田区、四国高知市で、全国調査として行われたが、今回の報告は、東京都墨田区社会の実態分析（中間報告）である。

調査は、全国調査として行われたので、研究集団は北大教育学部を除いても25名の大きにわたったが、今回発表する東京墨田区社会調査には、布施鉄治、岩城完之、安原茂、吉沢四郎、鈴木敏子、小内透、浅野慎一、土田俊幸、北沢梅英、小西二郎、酒井恵真、布施晶子、藤井史朗、内田司らが参加した。このほか横浜国立大学教育学部院生、また北海道大学教育学部院生諸氏の力によるところが大きい。実際の実態調査に関しては、前記の諸氏のほか、山梨大学教育学部学生、北海道大学教育学部学生諸君が大きな力となった。本研究報告書は、諸種の事情があって末尾に示した諸氏によって、とりあえずまとめた。今回発表の東京墨田区調査に限って言っても、調査は未だ開始したばかりであり、市民生活調査及び事業体調査の二本の柱から現状変動の、その構造的側面からの分析、すなわち現下の社会・文化的側面の変動分析に力を注いだ。正直に言って本調査研究はその緒についたばかりであり、終章でみたように今後の継続調査の諸結果に注目されたい。

しかしながら、今回の東京墨田区調査に限っていても、現下のわが国社会の社会・文化変動に関しては多くの知見を得た。私たち研究集団は、続いて帯広、福島、高知のこの主題に沿った実態調査分析を公表すると共に、全国共通の比較分析を行いたいと考えている。本調査研究に関してご批判をいただければ幸いである。